

## 科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 28 年 6 月 22 日現在

機関番号：33905

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2012～2015

課題番号：24520245

研究課題名(和文) 暁台・樗良・蕪村における連句手法の総合的研究 蕉風伝書を視座として

研究課題名(英文) Comprehensive Research on the Collection of Linked Verse Techniques of Kyotai, Chora, and Buson: From the Perspective of Traditional Shoufu (Correct Style in Haiku) Texts

研究代表者

寺島 徹 (TERASHIMA, Toru)

金城学院大学・人間科学部・教授

研究者番号：30410880

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,700,000円

研究成果の概要(和文)：暁台、樗良の江戸中期の連句資料を中心に収集し、書誌調査、資料翻刻、作品の分析等を行った。とくに、天理図書館(綿屋文庫)、国文学研究資料館、藤園堂文庫、名古屋市博物館等の蔵書を中心に調査を行った。連句の分析に関連して江戸中期における蕉風の伝書の調査も行った。江戸中期の連句に関する俳論書や伝書の調査を行う過程で、暁台に強い影響を与えた横井也有についても、新出の書簡資料をもとに分析をくわえた。也有と雲裡坊との関係をもとに、也有の連句理念や俳諧観に関する新しい知見を得ることもできた。也有の反美濃派意識は、暁台の連句観に対する視座となるものであることを分析した。

研究成果の概要(英文)：Many materials have been collected, focusing centrally on the mid-Edo period linked verse documents of Kyotai and Chora. An analysis of bibliographical studies, reprinted documents, and original works was then conducted. The investigation primarily examined the literary collections of the Tenri library, National Institute of Japanese Literature, Toendo collection, and Nagoya City Museum. In the process of studying the traditional texts and documents on the theory of Haiku related to linked verses in the mid-Edo period, an additional analysis of Yayu Yokoi, a major influence on Kyotai, was performed, based on newly found letters. The relation between Yayu and Unribo provided a foundation that made it possible to acquire new knowledge of Yayu's view of Haikai and his ideas about linked verses. Yayu's anti-Mino school sentiment was analyzed, and it was ascertained that the characteristics of this sentiment have implications when considering Kyotai's view of linked verses.

研究分野：俳文学

キーワード：暁台 樗良 連句 伝書 也有

## 1. 研究開始当初の背景

(1) 江戸中期における中興期俳諧の連句研究は、注釈書を除けばほとんどなされていない。この時期の連句研究が停滞している理由には、時代的背景として「連句解体の過渡期であること」「付筋の臙化という傾向がみられること」、さらに資料の面として「蕪村以外の俳人に関して、きわめて未整備であること」等があげられる。代表者は、このような問題を抱える中興期の連句の分析に有用なものとして、「蕉風伝書」の存在に着目している。中興期は蕉風復興運動が行われた時代であり、「芭蕉に帰れ」のかけ声のもと、「蕉風伝書」が流布し、権威を持つようになっていたのである。

(2) 研究代表者は、これまでの中興期の俳壇研究を中心に、暁台・橋良の連句の新資料を発見・報告してきた。また、連句評点集という、それまで見過ごされていた指標があることを指摘し、調査分析を行ってきた。その研究の過程の中で、連句解体期の中興期にあって、伝書の伝授と連句の座の関係が密接であること、また、落款印などを通して連句評点と伝書の権威についても密接な関係があることを確認してきた。これまでの研究で、収集した連句資料を、連句の即注である連句評点、および連歌伝書によって「式目作法」「付合語彙」の観点から分析することにより、暁台・橋良・蕪村らの連句手法の違いについて、地方系と江戸座という画一的な分類のみでなく、型と内容の両面から総合的に分析することができるものと考えられる。

## 2. 研究の目的

(1) 暁台・橋良・蕪村の連句において、「蕉風伝書」を視座として、「式目作法の分析」「新資料の整備」「連句評点・俳論による分析」の面から、連句手法の差違を明らかにすることを旨とする。

(2) 暁台・橋良らが目にした蕉風伝書について資料の調査分析を行う。代表者は、近年、暁台筆の『白砂人集』(桜花学園大旧蔵)を発見し、諸伝本との比較調査を行おうとした。これにより、暁台が連歌伝書『白砂人集』の出版に関与していることを明らかにした。一方で、蕪村書簡に「連歌者流」を批判する文言が出てくるが、暁台が『白砂人集』のような連歌系の蕉風伝書を重視し、注意深く校訂・改変している姿勢を考慮すれば、暁台と蕪村の連句について、連歌の式目に立ち戻って分析する必要性があると考えられる。通説では、「月の出所」というごく一部の美濃派の作法論によっているが、式目・作法(「山類」等の別、「去嫌」等)の細かなレベルにまで掘り下げ、連句を分析する。

(3) 橋良、暁台について未紹介の連句資料の収集、調査分析を行う。近年、名古屋市博

物館に尾張・伊勢における暁台・橋良関係の資料が数多く寄贈された。また、暁台自筆の連句資料として、中興期俳人、白雄の一座する歌仙資料も発見することができた。このような、連句における新資料の調査を行いながら、基礎資料を翻刻し目録を作成する。

(4) 付合による語の選択という側面から、一座する連句において、スクリーニング調査を行い、付合の状態について調べる。中興期の研究では、従来『類船集』などの初期俳諧の付合辞書を使うことを否定する傾向が強くみられた。しかし、暁台が連歌系の蕉風伝書をみていたことを考慮すれば、語の繋がり(前句に詞で密接につながる付け)と疎句(前句と詞で明示的につながらない付け)の度合いをはかるために、付合語の調査は必要な手続きであると考えられる。暁台・橋良の連句において、その傾向をデータ化する。連句評および俳論(七名八体など)の付けと作品の付けの距離をはかることを目的とする。連句評点の調査から導き出した特性を橋良、暁台、蕪村の連句実作の分析に応用する。

(5) 以上の観点をもとに、暁台・橋良らの連句作品における差異について明らかにしようとする。

## 3. 研究の方法

(1) 書誌調査を進めるため、デジタル端末やデジタルカメラ・NAS等を利用して調査を行った。デジタルカメラで撮影を進め、マイクロフィルム(フィッシュ)化されているものは、現地調査で必要箇所を確認したあと、適宜、紙焼き複写を依頼し資料を集めた。名古屋市博物館では、加藤暁台資料、横井也有資料を中心に俳書、書簡、句幅などの調査を行った。東京方面には、おもに、国文学研究資料館と早稲田大学中央図書館、国会図書館等へ調査のため、定期的に出張調査を行った。インターネットで公開されていないマイクロフィルムと紙焼き資料を中心に俳壇事項について分析した。関西方面では、おもに天理大学図書館に赴き、資料収集と書誌調査を行った。同館綿屋文庫蔵の伊勢資料である「逸漁俳諧資料集」を中心としたマイクロフィッシュについて調査を行い、その過程でリストアップした資料数十点の紙焼き複写を行った。これらの資料をもとに、逸漁関係の連句の資料を翻刻し分析しようとした。

(2) また、連句資料の収集過程において、平成26年度からは、研究組織として、あらたに連携研究者が加わった。代表者と連携研究者の協力のもと、歴史学の観点からも分析を行い、適宜、資料収集・データ化を進めた。翻刻した資料のOCR作業、データ化も行った。また季語、付合、俳壇資料のデータ化にあたっては、おもに修士生のアルバイトに入力作業を委託した。それに代表者が補正を行い、

エクセルへの入力とデータの分析を進めた。

#### 4. 研究成果

(1) 蕉風復興運動における連句手法について、『白砂人集』『俳諧新々式』など暁台、樗良、蕪村などにゆかりの深い蕉風伝書を中心に、調査研究と分析を行った。蕉風伝書の所在確認と諸本調査、連句資料の収集と書誌調査を中心に行った。予算に計上した図書(和古書、研究書含む)、デジタル機器をもとに、伝書資料の収集・書誌調査・データの整理保存などの作業を遂行した。また、暁台が推奨した『俳諧新々式』が式目書の中で、どのような位置づけになるのか『俳諧無言抄』などとの関係を考慮しながら調査を行った。

暁台・樗良関連の連句資料が残存する機関を中心に書誌調査を行った。とくに、国会図書館、早稲田大学中央図書館、国文学研究資料館などの和本やマイクロ資料の調査を進めた。近郊の名古屋市博物館にも、近年多くの暁台関係の資料が寄贈されたため、書誌調査とデータ収集を行った。

そのような過程の中で、「許六系『白砂人集』の諸本について 安永期における蕉風伝書の出版を視座に」(『東海近世文学会第228回研究例会』)において、『白砂人集』などの伝書データの見通しについて研究の報告を行った。また、尾張・伊勢俳壇における伝書や伝授の具体的なあり方について、「蕉風復興運動と『白砂人集』『去来抄』の上梓を視座に」(『日本文学』vol.61-6)、「安永前期における暁台の伊勢行について 文芝坊白居と逸漁の交流を通して」(『東海近世』20号)等の論考で論じ、『白砂人集』出版の意図について明らかにし、今後の研究課題について報告した。

(2) 暁台・樗良の連句研究にくわえ、横井也有的資料調査も行った。也有的と暁台は師弟関係に近いものがあり、也有的資料の分析は、也有的から暁台への連句文芸における影響を考える上で重要なものである。也有的は『管見草』『非四論』等、広範な俳論を草したこととされる。宝暦六年における也有的と雲裡坊の関係より也有的と雲裡坊の虚実論の理解の違いについて検討をくわえ、也有的の俳論意識について明らかにした。也有的の美濃派批判が支考そのものへの批判というより、雲裡坊や馬州など、現実の俳壇を意識して批評したものであったことを明確にした。俳文学会の全国大会で、「也有的の俳壇指導について - 宝暦期における伊那俳壇の事例を中心に - 」として、口頭発表を行い、也有的の虚実理解について問題提起を行った。また、その成果を「宝暦期における横井也有的の蕉風意識について 美濃派および露川門への対応を視座として」(『国語と国文学』2014年3月号)等の論文として発表した。也有的が俳諧の趣向性について疑念をもち「けやけき」趣向を嫌

うという側面を持つことを指摘した。暁台中興期俳人の連句観を考える上で示唆的な評語と考えられる。

(3) 蝶夢、暁台、蕪村の関係を探るため、近江俳壇の調査にも着手した。暁台と蕪村は義仲寺において、安永末から天明初期にかけて、近江俳人、騏道を介し、近江湖南の幻住庵、義仲寺などで頻りに交流を行い、芭蕉顕彰運動に取り組んでいた。安永八年九月十三夜の後の月の風雅は、その顕著な例である。翌年二月の俳書『湖南』から天明三年の風羅念仏法要まで、蕪村、暁台の交流の中心は、芭蕉ゆかりの湖南の俳壇にあったといつてよい。このような点を踏まえ、暁台、蕪村と仲がよく、義仲寺に影響のある俳僧蝶夢とも交流のあった騏道に着目して、入集俳書の調査を行った。とくに、未紹介の湖南資料である、染筆帳『俳人自筆句帳』(蝶夢序)をもとに、義仲寺のみでなく、義仲寺周辺の俳壇状況についても分析をくわえた。この染筆帳は、蝶夢の安永期の自筆資料を含んだもので、蝶夢の比較的はやい年代の筆蹟をうかがうことができる。また、騏道をはじめ、烏明、一茶、蘭更など、当代の名家たちも寄せ書きしている。「蝶夢の『俳人自筆句帳』(仮題)について 「染筆帖」にみえる一茶・烏明・蘭更等の句を紹介して」(『東海近世』22号)として発表した。同様の染筆帳は、まだ、2、3点残存しており、今後、引き続き調査を行う予定である。

(4) 暁台の連句資料の収集と本文の確定作業を行った。満田達夫氏「蕪村と暁台 その連句作法をめぐって」(『連歌俳諧研究』66号)において、暁台の全連句一覧が示されている。歌仙形式主体で表六句をこえる長さを持つ連句を収集し、おもに蕪村連句と比較において初裏の月の出所と表の述懐について調査すべく作成されたものであった。しかし、暁台の連句リストは、30年の時を経て、かなりの連句を補うことができるようになった。この基準にそって考えたとき、そのリストにのる99巻に、逸漁文庫(綿屋文庫)の連句、羅城卷子資料、維駒暁台歌仙資料などの連句資料を加えることができる。この方針にもとづき、逸漁資料の書誌データの収集を行い、とくに、明和八年から安永三年、安永八年、天明元年におよぶ連句資料の調査を行った。これらの詳細な書誌調査をあらためて行い、「加藤暁台連句の補遺と考察」『金城学院大学論集』(人文科学編)12-2(2016年3月刊行)として、本文校訂ならびに、資料翻刻を行った。同様に、樗良の連句資料について、逸漁文庫の資料を中心に書誌調査を行い、一座する連句のリスト化と、本文校訂を行った。「三浦樗良の連句資料について」『金城学院大学論集』(人文科学編)13-1(2016年9月刊行予定)として、翻刻紹介も行っている。なお、尾張・三河・伊勢俳壇の研究にかかわる調査として、岡崎市美術博物館の俳諧資料調査にもおもむき、某家の新収蔵の中興期、

化政期の俳書コレクション・連句資料の予備調査も行っている。

(5) 4年間の研究を通して、暁台、樗良、也有を中心に、俳論書・伝書をもとに、連句の資料整理や分析を行った。4年間の調査で、派生的な課題も数多く生じた。尾張、三河、近江、南信濃に関する俳諧、連句資料に関する課題である。今後、ひきつづき風羅念仏法要、歌仙合といった個別のジャンルにおいて、資料収集や内容の分析を行う必要がある。

#### 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

##### [雑誌論文](計 11 件)

寺島徹「三浦樗良の連句資料について」『金城学院大学論集』(人文科学編)13-1

2016年9月刊行予定(査読無)(2016)

寺島徹「最平・墨山ら宛暁台書状の紹介」『東海近世』23号研究ノート(東海近世文学会)(査読有)2016年7月刊行予定(2016)

寺島徹「加藤暁台連句の補遺と考察」『金城学院大学論集』(人文科学編)12-2(査読無)pp.33~43(2016)

寺島徹「蝶夢序『俳人自筆句帳』(仮題)の調製についての補訂」『東海近世』23号研究ノート(東海近世文学会)(査読有)pp.138~141(2015)

寺島徹「蝶夢の『俳人自筆句帳』(仮題)について「染筆帖」にみえる一茶・烏明・闌更等の句を紹介して」『東海近世』22号(東海近世文学会)(査読有)pp.83~99(2014)

寺島徹「横井也有と飯田俳壇 桐羽宛也

有書簡の紹介と俳諧指導の考察」『連歌俳諧研究』126号(俳文学会)(査読有)pp.11~27(2014)

寺島徹「宝暦期における横井也有の蕉風意識について 美濃派および露川門への対応を視座として」『国語と国文学』2014年3月号(東京大学国語国文学会)(査読有)pp.40~54(2014)

寺島徹「帯梅宛および間毛宛の暁台書簡の紹介」『東海近世』21号研究ノート(東海近世文学会)(査読有)pp.81~86(2013)

寺島徹「俳人桐羽について」『柏心寺史』(柏心寺史刊行委員会編)(査読無)pp.84~86(2013)

寺島徹「安永前期における暁台の伊勢行について 丈芝坊白居と逸漁の交流を通して」『東海近世』20号(東海近世文学会)(査読有)pp.43~58(2012)

寺島徹「蕉風復興運動と『白砂人集』『去来抄』上梓を視座に」『日本文学』vol.61-6(日本文学協会)(査読有)pp.36-47(2012)

##### [学会発表](計 3 件)

寺島徹「也有の俳壇指導について - 宝暦期における伊那俳壇の事例を中心に -」

2013年9月29日 平成25年度俳文学会全国大会(中部大学)

寺島徹「横井也有と下伊那俳壇について - 窪田桐羽宛の書簡を中心に -」2013年5月18日 東海近世文学会5月例会(第237回)(名古屋市鶴舞中央図書館)

寺島徹「許六系『白砂人集』の諸本について - 安永期における蕉風伝書の出版を視座に -」2012年4月7日 東海近世文学会4月例会(第228回)(於熱田神宮文化殿)

##### [図書](計 0 件)

##### [産業財産権]

出願状況(計 0 件)

名称:

発明者:

権利者:

種類:

番号:

出願年月日:

国内外の別:

取得状況(計 0 件)

名称:

発明者:

権利者:

種類:

番号:

取得年月日:

国内外の別:

##### [その他]

ホームページ等

#### 6. 研究組織

##### (1) 研究代表者

寺島 徹(TERASHIMA, Toru)

金城学院大学・人間科学部・教授

研究者番号: 30410880

##### (2) 研究分担者

( )

研究者番号:

##### (3) 連携研究者

石月静恵(ISHIZUKI, Shizue)

桜花学園大学・保育学部・教授

研究者番号: 70158749